

2022 年 クイーンズ大学 帰国生アンケート

※注意※ ここで記載されているアンケート回答は**全て個人の主観によるもの**であり、あくまで『参考情報』としてみなさんに開示しています。**正しい情報とは限りません**ので、その点について了承した上で留学準備に活用してください。

1. 授業について

授業の形態や進め方はどんなものでしたか。

オールイングリッシュの授業だった。スピーキング重視で 30 分で内容役割構成決めてグループでプレゼンしたり、文法はアクティビティで何度も使っていて覚えるような感じだった。一回生の必修の授業と似ていた。

グループワークが日本よりもかなり多く、クラスメイトと意見交換ができる機会が多かったです。授業の進行スピードは少し早めでしたが、全然ついていけるスピードでした。

毎日必修が午前中にあり、午後にスピーキングクラスや、ポキャブラリーのクラスがあった。形態は講義型ではなく、少人数で生徒が授業参加しやすかった。

グループワークが多く、単語、スピーキング、リーディング、リスニング、ライティングすべてを毎週行っていて一つの単元が終わるごとにテストをしていました。

クラス分けは、最初のテストで文法・英単語の知識量ごとにクラス分けされる。授業や課題は、担任のやり方次第変化する。私のクラスは、文法が弱いクラスだったが文法は授業の半分と課題として自主的に勉強しテストで確認だった。授業の大半は、リスニング力とスピーキング力を向上させるためにグループディスカッションかペアディスカッションがメイン。

生徒同士のディスカッションが多かった

メインの Core の授業では、教科書が5つのパートに分かれており、それぞれのトピックについて2週間取り組みました。同時に、文法も説明を受けました。各パートが終わるごとに関連した内容のリーディングとリスニングのテスト、文法のテストを受けました。LabSpoken の授業ではほとんど毎週リスニングテストを行い、中間・期末テストにはリスニング・スピーキングテストがありました。Vocabulary の授業では、1、2 週間に一度のペースで単語テストがありました。Discussion の授業では、毎授業ごとにお題を出されペアやグループで 90 分話し続けました。

授業は基本的に英語を使った discussion でした。そのほかにもスポーツやリスニング、英単語などのさまざまな授業を選択することができました。

授業の形態は、シンプルに英語で英語を学習するというもので、日本の授業とあまり大差はなかった。

初日に受けたテストをもとにクラス編成が行われました。クラスでは、四人がけの机に自由に座って授業を受ける形でした。

コアクラス、ディスカッション、ポキャブラリー、ラボスポークン、エレクトィブのクラスがありました。コアでは基礎的な文法がメインだった。最初に解説があり、その後例文や使い方を学んでいく。ディスカッションでは、毎週違うトピックについてクラスメイトと話し合った。ポキャブラリーは毎週 30~40 単語書かれた紙を渡され、次の授業でテストがあった。ラボではリスニングとクラスメイトと会話をする、またはみんなの前で渡された紙を読み上げて自分の発音が先生によって訂正されたりした。

学力別で 1 クラス 14 人程度の計 7 クラスほどに分けられ、少人数でのグループディスカッションやプレゼンテーションが多かった。

文法、英単語、ディスカッション、スピーキング、選択科目の 5 種類の授業がありました。私のクラスでは午前中の 2 時限は毎日文法の授業がコアとして行われていました。文法の授業の内容はどれも高校で習ったものでしたが、ミニゲームやグループワークを通して細かい使い分けまで詳しく学ぶことができました。スピーキングの授業では様々な話題についてクラスメイトと討論やリスニングの練習を中心に授業が行われました。英単語では毎週 50 単語の新しい単語を覚え、次の週にテストをしました。

クラス人数、日本人と留学生比率、留学生の出身国などについて教えてください。

14人。日本人10人(外大6人、関西学院4人)、パキスタン1人中国3人

私のクラスは13人でした。日本人が一番多く、その次は中国人、その他韓国人、西アジアの人、ヨーロッパの人も何人かいました。半分以上が日本人だったように感じました。

日本人5人、中国人5人、韓国人2人、アフガニスタン人1人の全部で13人

私のクラスは13人で、中国人が3人、パキスタン人が1人、最初の6週間だけグアテマラ人が一人、それ以外は全員日本人でした。

クラスは12人。5:4:2:1で日本、中国、韓国、アフガニスタン。

全13人日本4、韓国2、中国5、アフガニスタン1

私のクラスは13人のクラスでした。日本人は他校からの留学生6人、韓国人留学生2人、中国人留学生3人、シリアからの留学生1人と比較的他国からの留学生が多いクラスでした。

クラスの人数は各クラス約15人程度。日本人が7割。中国やアフガニスタン出身の学生がいました

クラスは一クラスあたりが15人程度で、日本人が半数以上を占めていた。多くは中国や韓国から来た人たちだった。

大体どのクラスも15人程度で授業が行われていました。私のクラスには、十人の日本人と三人の中国人、1人のパキスタン人がいました。

クラスは13~14人(中国:3人、アフガニスタン:1人、グアテマラ:1人、日本:9人)。途中変更あり。ちょうど同じプログラムに関西学院大学から30名ほど来ていて、日本人で溢れかえっていた。

私のクラスは14人で日本人が10人、アフガニスタン出身が1人、中国出身が3人だった。

14人クラスで14人中10人が日本人、3人が中国人、アフガニスタンの学生が1人という構成でした。

クラスの雰囲気はどんなものでしたか。

みんな仲が良く、発言しやすい雰囲気でした。

授業中に挙手しなくても、自由に発言するような感じだった。先生も生徒に問いかけることが多く、日本に比べて発言をする人が多いので、活発な感じだった。授業中静か過ぎる人は評価が少し下がる。

ディスカッションがメインだったので、クラスメイトとの仲はすぐに良くなった。また、戦争や政治、自国の文化や特徴や問題を話す授業が多く他国の子は知識が豊富なので、事前知識がないと理解できても積極的に発言するのが難しい。

私のクラスメイトはみんなとてもフレンドリーだったので、すぐに仲良くなれました。私のクラスはとても賑やかなクラスで、グループやペアの活動になると話が止まらず、どのグループもずっと話し続けていました。休憩中もみんな話し続けるため、時間がいつのまにか過ぎていくとゆうことが多かったです。なので、授業開始時は、先生から注意を受けたこともありましたが、ですが、わからないことがあると積極的に先生に質問したり、友達同士で相談したりしやすい環境が整っており、クラスで協力して学ぶ場としてとても快適でした。

みんな積極的に英語を使う姿勢が見られた。積極的に発言を行っていた

日本の授業と大差はなかった。違いを挙げるとするならば、日本よりもパソコンを多く使用していた点である。

留学後に振り返ってみると、私のクラスは学習意欲が高い人たちがたくさんいたように思います。さらに、日本で受けていた授業とは違い、少人数であったので自分の意見を発表したり、クラスメイトと共有したりする機会が多かったです。

授業時間は80分間でチャイムがなく、休憩時間は基本10分だが日によって違う。ずっと誰かが何かを食べている。積極的な生徒が自分の意見や思ったことを自由に発言できた。一方的に教授の話を聞くのではなく、生徒が主体となっているクラスだった。また、教科書のマニュアル通りに授業が進められるのではなく、生徒が関心のある内容や疑問(主に各国の文化と政治方針)について詳しく話をしてくれたりしたので、全く授業と関係ないことをしたりする日もあった。

少人数のため、日本の授業と比べてとても発言しやすく、間違いを恐れずに自分の意見を述べている人が多い印象だった。

男女・国籍関係なく、とても仲の良いクラスでした。休憩時間もにぎやかでした。

授業の中で取り上げられたトピックで印象に残っているものは何ですか。

nature or nurture は印象に残った。ディベートをしたので他の人の意見も聞けて良かったし、エッセイを書くのに自分の考えを膨らませることができた。

パラグラフの書き方については念入りに教えられたので記憶に残っています。Lab spoken という授業の CBC ニュースのリスニング、その内容をクラスメイトと確認しあうディスカッション、またそれに関連した先生からの質問について自分たちの考えを伝え合うパートがとても印象に残っています。

カナダにはリメンバーデイという終戦記念日があり、そのトピックが印象的だった。

日本の留学生がアメリカに留学して射殺された事件が、テストの問題として使われており、クラスの大半の人が日本人でなくても知っていたことが印象的だった。

それぞれの国によってマナーが違うこと

132 クラスからアカデミックな内容が取り上げられるので、トピックによっては知らない単語も多く大変な時もありました。そのなかでも、Chemical Engineering が難しく印象的でした。物理に関する英単語が多く、初めての単語ばかりでした。本文の内容を理解し、要約する作業がとても難しかったです。物理専攻の韓国人留学生に聞きながらなんとかやり遂げました。このトピックのまとめとして Cause & Effect のレポートも個人で作成しました。私は初めて本格的なレポートを書いたので、Reference の書き方などわからず困りましたが、クラスメイトと協力して何とか、やり遂げました。

人間の性格は遺伝か育てられ方で決まるのかを discussion する授業

英語の発音に関するもので、母語によって発音しにくい音が違うという点が面白かった。中国では V の発音、スペイン語では Y の発音が難しいなど。

印象強かったのは、「人は生まれつき持ったものによって形成されているか、産まれてから形成されていくか。」というトピックでした。今までに扱ったことがなかった話題であったので、新鮮で面白かったです。

文化の違い、中国政府の方針について、SDGs。

世界で活躍している人というトピックで挙げられたデイビッド鈴木さんの話が印象的だった。日系カナダ人の彼は環境保護のためにたくさんの政策を行い、貢献したことを知った。

性格は生まれつき決まっているものか、それとも後天的なものかについてのトピックが印象に残っています。このトピックについて授業ではまず、グループで討論し、週末にはそれぞれエッセイに意見をまとめる課題がありました。論理的に意見を英語でまとめたり、相手を納得させたりするための強い根拠の書き方などを学ぶことができました。

授業を受けるにあたって工夫していたこと、努力していたことはなんですか。

疑問があったら躊躇せずによく聞くようにした。テスト中でもなんでも聞いていた。

わからないことがあったら、その場で質問し、自分で調べられることなら授業後に自分でも調べて、とにかくもやもやする部分を残さないようにしていました。調べてもわからない場合は、もう一度先生に質問していました。

発言をよくするようにしていた。

日本の政治や歴史などを詳しい同じ日本人の学生に教えてもらって、理解してから簡単な討論などをして授業中に英語で白熱していても自分も参加できるようにしていた。

私は、授業中些細なことでもわからなかったらすぐに先生か他の留学生に質問するよう努力しました。授業開始当初は、緊張していたものもありますが、他国から来た留学生が積極的に質問や発言しているのに圧倒され、なかなか自分の疑問や意見を口に出来ませんでした。ですが、些細なことでも、質問することでそこからさらに多くの知識を学ぶことが出来たとおもっています。

日本語を使わない。積極的に発言する。

先生の発音を注意深く聞き真似をしていた。

基本的には担当の先生に当てられる形が多かったので私が当てられた時には、英語の間違いを恐れずに自分なりの英語で伝えるように意識していました。そして、私はリスニング力が低かったので先生が話しているときもリスニング練習だと思って聞くようにしていました。

授業中に積極的に発言するように心がけた。先生に質問をたくさんした。クラスを盛り上げた。クラス内でのペアワークはなるべく日本人ではない子と組むようにした。

先生に当てられてからではなく必ず自分から発言するようにし、休憩中も中国人の友達とずっと喋ることで英語力をレベルアップさせることができた。

わからなかったことや疑問に思ったことは友達に後で聞くのではなく、できるだけ先生に英語で直接聞くことを心掛けました。また授業内でも積極的に発言するように努力しました。

2. 滞在先・自由時間の過ごし方について

ルームメイトはいましたか。	ルームメイトはどこの人でしたか。
0人	-
1人	日本
1人	インド

通学手段	通学時間	主に食事はどこでとっていましたか。
バス	0-15分	ホームステイ先
バス	15-30分	ホームステイ先
バス	30-45分	ホームステイ先
バス	45-60分	ホームステイ先

部屋に用意してあったものは何ですか。
ベッド 机 タオル 文房具 ドライヤー シャンプー・リンス ボディソープ 洗濯洗剤等 衣服と薬以外は全てあった
一つ目の家には、バスタオル、トラベル用サイズのシャンプー・リンス・ボディーソープ、ボディクリームなどがおいてありました。
ベッド、机、クローゼット、バスタオル、ドライヤー
ベッド、机、クローゼット
延長コード、ハンガー、タンス、勉強机。
ベッド、タオル
1つ目のホームステイ先では、特に何もなかったので自分で持ってきていたものを使って生活していました。2つ目のホームステイ先では、棚やハンガー、タオル、歯磨き、石鹸、ボディスポンジなど必要なものは全て用意してありました。
ベッド ドライヤー 椅子机 生活必需品
ベッド、机、タンス、棚、ドライヤー、シャンプー
ベッド、ハンガー、クローゼット、照明、姿鏡、小物入れ
ベッド、クローゼット、バスタオル、勉強机、洗濯ネット、洗濯洗剤
ティッシュ、本、ハンガー
机、ベッド、鏡、延長コード、4段の棚、洋服収納、ハンガー、ドライヤー

自分で用意したものは何ですか。

衣服と日本の薬、化粧品、スキンケア用品

箱ティッシュ

衣服、生活用品

箱ティッシュ、ファブリーズ。

コンタクト洗浄液やシャンプーだけを留学先で自分で購入しました。

服、筆記用具

ティッシュ、タオル、水筒、シャンプー、リンス

洗面用品(シャンプー等)、歯ブラシ、衣類

ドライヤー、ボディソープ、シャンプー、リンス、洗面用具、服、下着

バスタオル、

ホームステイ生活をする上で、日本と違って戸惑ったこと、驚いたこと。

朝起きるのが遅く、夜寝るのが早いので物音を立てないようにするのが大変だった。シャワー時間が短かった。

洗濯が週一であったこと。夕食の時間が少し早かったこと。

お風呂ではなく、シャワーであること。

夕方6時までには夕食を済ませる必要がある

基本的に現地の人は就寝時間が早いこと、バスの時刻が日によって早まったり遅まったりとバラバラであること、電車通学ではなくバス通学が基本であること、学生のバス料金が無料であること、夕食の時間が早いこと、お風呂に入る頻度が毎日ではないこと。

ご飯の時間と就寝の時間が早い。シャワーの時間が決まっている(22時まで)。土日は教会に行く。ご飯を食べる前にお祈りがある。

それぞれの家によって異なるが、お風呂の時間が決められていた。時間帯によって電気代が変わるため、洗濯の時間も決められていた点。

洗濯が一週間に1回だったこと、夜9時には家の中がとても静まりがえていたこと、

ホームステイを快適に過ごすためのアドバイスをお願いします。

部屋に箆らない事。課題もリビングでして良かったのでリビングでやっていた。寝る時と電話する時以外はリビングにいてホストファミリーと壁を作らないようにした。

自分の考えや思っていることは素直に伝える。遠回しには伝えない。だからといってわがままにはならないようにする。常に感謝を伝える。

あまり、遠慮しすぎないこと。

1つは、最初に必ずその家のルールを聞いておくことだと思います。2つのホームステイ先を経験して、家ごとに全く違うルールがあるとわかったからこそ、最初にルールを聞いておくことでお互いが快適に過ごせると思います。

しっかりとコミュニケーションをとり、予定などを伝える

自分が日本で生活していた時と全く同じ生活を送ることは不可能なのでホームステイ先の生活に合わせながら自分の暮らしやすい生活を見つけることが大切だと思いました。そのため、ホームステイ先の人としっかりとコミュニケーションをとって家の決まりなどについてしっかり話し合うことが大切だと感じます。(お風呂の弛緩や洗濯の日、門限など)

NOとYESをはっきり伝える。お客さんではなく家族なので家事を手伝ったりする。部屋に引き篋もらずになるべくホストと話す。

とにかくホストファミリーとコミュニケーションをとり、積極的に話しかけに行く。

わからないことは勝手にせず一度聞いて確認してから行動すべきです。またご飯の感想やお礼、謝罪などの気持ちははっきりと言葉で何度でも伝えた方が仲良くなりやすいと思います。

パソコンは 持参しましたか	インターネットは部屋から 接続可能でしたか。
はい	LAN ケーブルで可能
はい	ワイヤレスで可能

携帯電話は 持参しましたか	利用方法
はい	日本から SIM カードを持参
はい	留学先で SIM カードを購入
はい	日本の携帯をそのまま持参

大学主催のプログラム/イベント/ボランティア/サークルなど。
Instagram で日本人が参加できそうなサークルがないか探して、サークルに参加し、現地の人と知り合えた。
毎週昼休みや放課後に行われるイベントやアクティビティのお知らせがメールで来ていたので、自分が参加したいものには申し込んで参加していました。
大学主催のプログラムが多く開催されたので、そのプログラムへ、参加することが多かった。スポーツ観戦や、音学鑑賞や、スポーツなど。
スポーツの留学生アクティビティが多かったので楽しく参加していた。
大学の図書館で過ごす
クイーンズ大学はもともと大学主催で、ナイアガラやワンダーランドなどに旅行するイベントがいくつもありましたが、今年ほどの旅行も人数が集まらず大学主催のものにはいけませんでした。他のイベントでは、クイーンズ大学のクラブチームの試合を見に行きました。ホッケーやバスケ、パレー、フットボールなど様々なスポーツを試合会場に行き、生で見る事が出来ました。また、週に一度、平日のお昼に大学のジムが開放されるので、ジムに行き、他の留学生とバドミントンやホッケー、パレーなどのスポーツをして楽しみました。
日本語を教えるクラブに参加した
サッカーをした。また、日本語のスピーキングパートナーを作りに行った。
現地生徒が開催してくれていたイベントはたくさんありました。しかし、これらのイベントは留学生を対象としたものだったので、たくさんの現地生徒と関わることは難しいと思い、私の参加頻度は低かったです。そのため、授業後などの自由時間は、クラスメイトと遊ぶことが多かったです。
・ボランティアクラブ(ゴミ拾いや SDGs に関して考える)・日本語クラブ(日本語や日本に興味がある現地学生との交流)・現地学生で教師になりたい人たちのサークル・パレーボール、フットボール、ホッケーの試合観戦
日本に興味がある人のイベントが時々開催されていて、そこで日本語を学んでいる人たちと一緒に英語を通してたくさん話げできた。
週に3・4回行われる大学主催のイベントによく参加していました。このイベントはカナダでしか体験できないことが体験できたり、現地学生と関わることでとても良い機会になりました。休みの日にステイ先に籠るのではなく、これらのイベントを通して、交流を広げることができたので、沢山参加して本当に良かったと思っています。

学内/学校近辺でよく利用した施設やお店など

ダウンタウンには飲食店がたくさんあったので中国人の友達と毎週アジア料理を食べに行った。ダララマというダラーショップでお菓子や必要な物も変えた。カタラキセンターというショッピングモールにはたくさん衣服が売っていて衣服を調達している人もいた。

学校のジム、ダウンタウン、カタラキセンターにはよく行っていました。

学校のジムを利用したり、ダウンタウンにご飯を食べに行ったりした。

ダウンタウンのレストラン、ジム。

図書館、ジム

放課後はよく韓国からの留学生と一緒に大学周辺の Tim に行き一緒に勉強をしたり、話したりしていました。また、大学の授業が早く終わる日はメインキャンパスのジムに行き、体を動かしていました。その他の休日などはダウンタウンに行き、ご飯を食べたりしていました。

tim horton

学校のジム

基本、ダウンタウンに色々なお店が集まっているのでダウンタウンで遊ぶことが多かったです。さらに、私がよく一緒にいた友達は行き帰りのバスが同じだったのでバスを乗り換える場所にあったモールにもよく遊びに行っていました。

学校のジム、カフェテリア、図書室。ダウンタウンのカフェ (Tim Horton, Starbucks, Balzac's cafe)

カフェテリアや一回のロビーでよくみんなで集まって過ごしていた。

学校帰りによくダウンタウンに行き、カフェ巡りをしました。おすすめのカフェは Crave というお店です。Metro というスーパーにも良くお菓子を買に行きました。Wall Mart は日用品や食品がとても安かったので、お土産を大量に買いたいときによく行きました。

3. 留学前準備について

留学前に取り組んだ準備

単語の勉強が主だった。他にはリスニングの練習をした。

ホストマザーと一週間前から連絡を取り合い、自己紹介から留学に対する不安や自身の今の英語力について相談し伝えていた。

私はクラス分けのテストがあることがわかっていたので、それに向けて留学前は単語の勉強をしていました。どんな問題が出るかは全くわかっていなかったため、TOEFL の単語帳を使っていました。リスニングに関しては、英語のラジオをなるべく聞くようにしていました。

オンライン英会話で日常英語を学んだ。

会話で使えるような表現を勉強した。

週 2 日は授業後そのまま学校の図書館に残って勉強をしていました。勉強内容は、主に単語の暗記、リーディングをしていました。単語は定番の単語帳と日常会話で使われる単語が書かれたものの二つに分けて学習していました。そして、短期間でしたが出発直前はオンライン英会話もしていました。

書類の準備、ホストファミリーへのお土産、基本的な英会話のおさらい、洋楽・洋画を見る、家や学校の周りを Google マップで見る。

一通り今までの英語の勉強を復習する。

TOEIC の受験、文法の確認、

留学前にしておけばよかったと思う準備

文法や、スピーキングの練習や、発音の練習

英単語の勉強、リスニング。

ワクチン接種3回、リスニングに慣れておく、日常で使うフレーズの勉強

クラス分けのテストでは、リスニングがものすごく難しいとは思っていませんでしたが、授業やテストを通して自分のリスニング力のなさを実感し、留学前にもっとリスニング力をあげておけば良かったなと思いました。

英単語の復習

単語を増やしておくこと、日本について説明ができるようにしておくこと。

今まで曖昧だった文法を完璧にする。

リスニング力の強化に努めておけば良かったと思います。

日本から持って行って役に立ったもの、または喜ばれたもの

日本茶パック。毎日水筒に入れて持っていった。ホストマザーが柿の種が好きだと事前に言っていたので持っていったらかなり喜ばれた。薬と抗原検査キット。

スリッパ、ウエットティッシュ

スキンケア用品などの生活用品はカナダのものでは肌に合わないものがある。

抹茶、ヘアードライヤ、日本のお菓子。

日本製の文房具、カップラーメン

小さいバック、お財布(数種類)、洗濯ネット、ブーツ(雪の日用)、エコバック

おみそしるをお土産でもって行って喜ばれた

味噌汁

トイレなどでリュックをかけることができるフック、洗濯ネット、1泊2日用のバック、薬、モバイルバッテリー、エコバック、歯ブラシ、シャンプー、リンス、生理用品

スリッパ、洗濯ネット、ヒートテック、日本のお菓子・お茶

乾燥対策のクリームや風邪薬。

マフラー、手袋、リップ

日本から持っていく必要のなかったもの

ドライヤー、タオル、洗濯洗剤はあったので持って行かなくてもよかった。

バスタオルはホームステイ先で用意してもらえた。

ホットカイロ、ヘアアイロン。

ハンガー、洗濯バサミ、たくさんの衣服、マスク、柔軟剤

シャンプーなどの液体(重量が重いので、購入できるのならば現地購入の方が望ましい)、自分用の日本食(個人差はあるが、私は日本食ロスにならなかった)

家によって異なるため、ホストファミリーと事前に確認することが大切。

洗濯ネット、洗剤、帽子

日本から持参すればよかったと思ったもの

日本食。風邪を引いた時にスープを作ってもらったけど異国の味がするものは食べる気分じゃなくてインスタントの味噌汁を持っていけばよかった。

日本食(レンチンのお米、日本のお菓子)

単語帳、ファイル

ファブリーズ、箱ティッシュ。

使い慣れた文法書

携帯用のストラップ、マニキュアのリムーバー

貼るカイロ

乾燥していたため、スキンケア系

箱ティッシュ、保湿剤

4. 留学費用について

お金をどのように準備しましたか。

デビットカード。旅行先での交通機関はICGカードを買うか現金しか使えないので現金を半分なくしてしまって困った。

現金、クレジットカード

クレジットカードと、キャッシュカード

クレジットカード、デビットカード、現金

クレジットカード、現金3万ほど

クレジットカード1枚、デビットカード1枚、現金

現金は1000ドル クレジットカード二枚

クレジットカード

クレジットカードは2枚持っていき、基本的にはその2枚で支払いをしていました。さらに現金がなくなった際に銀行から引き落とせるように、デビットカードも持っていっていましたが、一度も使っていません。

ビザとマスターのクレジット、現金

デビットカードと現金

クレジットカード、デビットカード、現金

現地で支払った住居費と食費を教えてください。

月1万くらい食費

ホストとの食事はすべて出してくれていました。自分で弁当作るときに必要な材料も頼めば、買ってくれていたし、一緒にスーパーに行ったときはお菓子も買ってくれました。そのため、私が払った食費は個人的に買ったスナックや外食だけなので、10万はいいないくらいだと思います。

食費は外食する時ぐらい。外食費は日本より高く、一回三千円ほどする。

食費が外食の場合最低でも2200円。

住居費は払っていません。外食をした時だけ自分で支払っていたので、食費は月2万円程度だったと思います。

月10万円くらい。

食費:約5万

テキスト代と通学費はそれぞれいくらぐらいかかりましたか。

テキスト2冊で1万4千

テキストは約1万5千円かかりました。通学は、学生証を提示すればバスは無料で乗れたので、お金はかかっていません。

教科書は7000円ぐらい。通学費は定期券で、日本での費用に含まれていた

1万9千円ほど。

テキスト1万ほど

テキスト代は私のクラスは2冊あったので合計おおよそ170ドルでした。通学費は通学初日にもらった学生証を見せるとキングストン内はどこでもどのバスでも無料で乗れたのでかかっていません。

テキスト2万円 通学費0

2万

テキスト代は2冊でおおよそ2万円程度でした。私のいった町は生徒のバス代が無料であったので通学費はかかっていません。

テキスト代170ドル、通学費はなし。

教科書が2冊で2万円、バスは学生は無料で乗れた

約1万6000円

その他旅行や買い物など個人的費用は何にいくらぐらいかかりましたか。

5万ぐらい

具体的にはわかりませんが、留学に行った期間で使った金額は食費込みで50万いっていないぐらいです。

服をあまり持っていかなかったので、たくさん買うことになり、五万ほど使った。旅行では一回五万ほどだった。

旅行で10万円、日用品に3万円程度。

10万円ほど

買い物はお土産と生活に必要なもの以外はあまりしませんでした。私の場合は、旅行費と友人との外食費にお金を使いました。

50万

その他の個人的費用は、月10万円ほどでした。

トータル月15~20万円ぐらい。旅行や買い物で使う金額に差がある。私はたくさん旅行や買い物をしたので多い方だと思う。

30万円ぐらい

旅行:約5万、おみやげ:約2万、買い物:約7万

5. 学習面について

語学力・コミュニケーション能力の自己分析

英語が完璧でなくても話すことに抵抗がなくなった。

最初は、訊かれてもすぐには答えられませんが、慣れていき相手を打ちながら普通に会話ができるようになったと思っています。新たに学んだ語彙などもありました。

文法力と、特にリスニング力が上がったと思う。

英語の語彙の数や英語でコミュニケーションをとれる失敗を恐れず積極的に声をかけられるメンタル面の二つの面が留学中特に力を入れていた部分であり、留学前と比べて人並以下だったものが人並より多少でも上と自信を持って言えるぐらいには成長していると思う。

日本に帰ってから性格が明るくなったと周りから言われた

留学当初は、ホストファミリーやクラスメイトと会話する際、話を理解するのに必死になり、自分の意見を言うことが難しかったです。だんだんと留学生活に慣れるにつれ、英語に耳が慣れていくのが実感できました。最初はクラスメイトと一対一でディスカッションする時も全てを理解することができない上、緊張して思い通りに意見が言えませんでした。ディスカッションを何度も重ねたことにより、自信もつき、クラスメイトとのディスカッションを楽しめるようになりました。しかし、クラス全体でのディスカッションになり、白熱すると全て聞き取ることが難しく、なかなか自分の意見が言えなかったのもっと実践的な英語を身に付けたいと思いました。

語学力・コミュニケーション能力は向上した

留学先では英語しか通じない友達と仲良くなったことでしっかりと英語でしゃべるという習慣がついた。また、一人で旅行に行くなどして旅先でも一人で困らないようになった。

語学力、コミュニケーション力共に向上したと感じています。特にスピーキング力とコミュニケーション力が身につきました。そして私はリスニング力が低かったため、留学当初に比べると成長はしたように思いますが、まだまだ聞き取れない部分もありました。

元々コミュニケーション能力には自信があったが、やはり自分のコミュニケーション能力は海外でも通用すると確信した。語学力もホストファミリー、現地の友達、店員などと会話する際には、問題はなかった。四技能のなかでスピーキングが一番得意だと確信することができた。授業の内容から普段の雑談で使うスラングまで理解できている場面が多かったと感じた。映画館に通って字幕なしで映画を見ることができるようになった。

ワールドカップ開催期間だったため、たくさんの人がサッカーに興味を持っており、自分自身サッカーが好きなので積極的に話しかけて行って英語力を鍛えた。授業面でも少しでも自分の考えが思いついたらすぐ手を挙げていた。

学校では習わない日常英会話を留学生活の中でたくさん身に付けることができました。また、ディスカッションの授業やホストファミリーとの会話を通して、言いたいことを簡潔で簡単な英語に即座に言い換えて相手に伝える大切さを学びました。またコミュニケーション能力として感情をしっかりと相手に言葉で伝えたり、大きなリアクションで表現したりすることで人より潤滑なコミュニケーションをとることができることが分かりました。

留学前の目標とその達成度

人見知りな性格を改善するという目標で挑んだ。結果、完璧には改善出来なかったけど、何かあったら誰かに聞く事に戸惑う事がなくなった。

視野をより広げ、将来やりたいことを見つける。達成度は50%くらいです。

スピーキング力の向上が、目標だった。行く前よりは格段にスピーキング力は上がったが、すらすら喋れるようにはならなかった。

リスニング力と最低限の生活に必要な最低限のスピーキング力を身に着けるのが目標だった。日常会話や注文買い物は話す速さは少しゆっくりだが英語で問題なくできるようになった。リスニング力は留学中で最も伸びた能力だといえるまでは成長できた。

留学先で他国の学生と積極的に関わり、友人を作ることが私の目標の一つでした。最初は言語の壁もあるためなかなか意思疎通ができず、あまり会話ができませんでした。ですが、授業でのペアワークや課題を通して徐々にですが話す機会も増えていきました。放課後には近くの Tim に行き、一緒に課題をしたり、昼食を食べたり、休日も出かけたりしました。帰国した今でも、連絡をとっているのもこの目標は達成できたと思います。中国人の子とは、英語と中国語と日本語でメールのやり取りをしているので勉強にもなっています。この関係を終わらせないためにも、こまめに連絡をとり続けたいと思っています。

留学前の目標は英語により関心を持ち現地で友達を作るといのものでおおむね達成できた

留学前は、日常会話で問題なくできる程度の英語力を身につけることでした。帰国後に振り返ってみるとやはりリスニング力はまだまだだと感じます。

たくさん経験したいと思っていた。授業、遊び、アクティビティ全てのこと。語学力はもちろんだが、それ以上に学ぶことがあると思った。文化や習慣など現地について体験したかった。なので、たくさんのアクティビティに参加し色々なことを経験できた。

日常生活での英会話を不自由なくできるようになるということが目標で、ホストファミリーやルームメイトと毎日英語で会話するため、最終的に問題なく会話ができるようになったと感じる。

現地の価値観や文化を学び、多くの国の人とのつながりを作ることを目標に留学しました。学校やステイ先で暮らす中で宗教の違いや深刻なホームレス問題、人の温かさを感じることができました。また学校内のイベントにも毎週積極的に参加し、他のクラスの留学生や現地の学生との関りをたくさん持つことができました。日々新しい考え方を知りながらとても充実した留学生活を送ることができました。

留学を通しての成長ポイント

プレゼン力。中国人の子達がメモなしでやっているのを見て後期のプレゼンは全てメモなしで挑んだらメモがなくてもプレゼン出来るようになった。

違う環境にも比較的すぐ順応できるようになったと思います。質問されたら、とりあえず黙らないで何か言うようになりました。

リスニング力と、コミュニケーション能力

コミュニケーション能力、失敗を恐れないメンタル、英語で自分の状況を説明、英語を使って誰かに頼れるようになったのが自分の感じた成長。

文法力、リスニング力が特に伸びた

留学以前よりもコミュニケーション能力が身についたと思います。留学当初は授業中に質問することに慣れていなかったのになかなか質問できませんでした。先生やクラスメイトとの会話を通して徐々にですが積極的に質問できるようになりました。また、最初は自分から他のクラスメイトに話しかけることができませんでした。私のクラスでは、外大生が私一人で誰も知らない状況だったので困っていました。ですが、自分から他の日本人留学生や他国からの留学生に話しかけ、ランチや放課後の時間を過ごすことでだんだんとコミュニケーション能力もついたと思います。

留学を通して自分で行動することができるようになったと感じる。

行動力が大きく成長した。したいと思ったことにはすべて挑戦した。

1番成長を感じた部分は、英語を話すことへの抵抗がなくなったことです。もちろん、母国語として英語を使用している国に行ったので日本で英語を話す時よりも抵抗がないのは当たり前ですが、英語を使って会話をすることへの楽しさが留学前に比べて増したように感じます。

語学力・コミュニケーション能力の向上と自分の語学力アップにつながった。様々な国の人たちと「英語」というツールを通して交流できるようになった。カナダだからかもしれないが、さまざまな国の人たちの価値観と文化を学んだ。何事に対しても(トラブル含め)積極的に取り組む姿勢が身についた。価値観の違いを通して日本の良いところ、悪いところを見つめ直すことができた。やはり自分は英語を話すことも好きだけれど、海外の文化も習慣も考え方も好きだと思った。

スピーキングよりもリスニングが上達したと感じた。たくさんの人と会話をしていく上で話を聞くことも多くなるため、早口や略語を喋られることもあるが、対応することができるようになったと思う。

積極性が身に付いたと思います。留学前は授業中の発言は控えめで、わからなかったことは後で友達に聞いて確認すればいいという考え方でした。しかし留学を通して、同じクラスの他国留学生の積極性や主張する姿に強く刺激を受け、考え方が変わっていきました。わからないことは下手くそでも、その場で自分の言葉で伝えてコミュニケーションを取ろうと考えるようになり、留学前と比べて大きく成長できたと感じました。

留学前/留学中/留学後の語学学習に対するモチベーションの変化

就活の為に帰国後は TOEIC の勉強に励もうと思った。

文法を勉強することも大事ですが、リスニングやスピーキングをより重点的にやるべきだと改めて実感しました。英語に対する興味がさらに深まりました。

留学中は語学学習へのモチベーションが高く、留学前より圧倒的に上がった。帰国後も留学先で、友達ができただけから、もっと話せるようになりたいという気持ちがモチベーションを高めてくれている。

留学中は英語にいやでも触れる環境だったので常に勉強に前向きだった。留学後は英語を楽しみながら毎日触れられるメディアやコンテンツを学んだので留学前は勉強を全くしていなかったが、楽しく毎日積極的に英語に触れている。

留学前は単語を覚えるだけで満足していたけど、日常会話にあまり結び付かなかった。そのため留学後はリスニングやシャドーイング、一日1分スピーキングをするなど、勉強法がガラッと変わって会話力をもっと付けようと思い始めた。

留学前は、英語のリスニング能力をもっと向上させたいと思っていました。留学中は、テストなどの結果を見て、自分のリスニングレベルを知ったことにより、一層リスニングに力を入れたいと思えました。また、自分の意見を正確に英語で伝える力が必要だと感じました。留学後には、留学を通して中国人や韓国人と交流する機会がとて多かったため、英語だけではなく他の中国語や韓国語も勉強したいと思うようになりました。今でも、定期的に中国人留学生や韓国人留学生と連絡をとっているため、連絡をとり続け、言語も学びたいと思っています。

留学前は自分の英語力に不安があったが語学学習にたいして強いモチベーションがあった。留学中には、多くの人と英語を通じてかかわることができてよりモチベーションが高まった。

留学先でできた友達と次に会う時もしっかりしゃべれるようでありたいのでこのまましっかりと学習としゃべる習慣をつけようと思った。

モチベーションは変わらず、いつも努力しないといけないと感じています。

今回の留学を通して、具体的な将来のビジョンが見えました。自分がしたいこと、得意なことが明確になりました。留学前はアバウトに英語を使った仕事につきたいと思っていましたが、今は具体的に何をしようかイメージできるようになりました。今の英語力が衰えないように、一月末に TOEIC と TOEFL を受けます。日本に帰ってきた今でも、ネイティブと話す機会を自分で探してイベントなどに参加しようと思います。2023 年から中国語に加えてフランス語を学ぶことにしました。春学期に受ける外大のネイティブと受ける授業も楽しみです。

留学中 1 番モチベーションが高く、留学後もこのプログラムでできた友達と SNS を通じて連絡を取ることでモチベーションが大幅に下がることはなかったと思う。

留学前から留学後にかけて語学学習に対するモチベーションはとて高くなりました。一つ目の理由としては、日々英語の環境に浸り、現地の人とコミュニケーションをとるのが楽しくなっていったからです。それと同時にカナダの文化にもより興味を持つようになりました。二つ目の理由としては、ホストファミリーともっと様々なことを話せるようになりたいと思ったからです。留学中、話したいことや日本について教えたことがあっても上手く伝えられず悔しい思いを何度もしました。そのたびに辞書や参考書で文法の確認を繰り返していました。

留学中 100%力を振り絞った瞬間

前期のファイナルプレゼン。初めてメモなしでプレゼンをしたのでとても緊張したし成績の評価も大きかったのでとても緊張した。

パラグラフ作成、プレゼン発表

英語のプレゼンをする時に発音を気をつけた、聴衆の気を引けるような内容にするなど努力した。

ホストファミリーと毎日必ず1時間以上は会話をすると決めて自分から話しかけた時が、一番勇気が必要だった。コミュニケーションをとるのに一番力を入れていた。

プレゼンテーションが5回ほどあって、他の国の友達たちは流暢に英語が話せるから緊張した。

授業内のペアプレゼンで、ペアであった中国人の子が体調を崩してしまい、一人で全てやった時です。準備の段階から体調を崩していたようで当日までペアの子とは一切連絡が取れず、準備もできなかったのも一人で準備をしました。授業内で初めてのプレゼンで、ペアの子とも相談ができていなかったのが本当に不安でした。発表当日もペアの子は休みだったので、私は一人でプレゼンをやりきました。初めてで、一人だったこともあり本当に緊張していましたが、クラスメイトや先生が温かく私のプレゼンを聞いて、相槌を打ってくれたことで緊張も少しほぐれ最初のプレゼンを乗り切ることができました。

トロントで迷子になったときは自分のもつ英語力を100%振り絞った

深夜のオタワで途方に暮れた時に必死に解決方法を探した。

プレゼンテーションで自分の考えを伝えるとき、ケータイを失くした際に色々な機関へ電話をしたとき、日本人以外の留学生と会話をするとき

最後のプレゼンテーション、三技能のテスト、スピーキングテスト、ホストファミリーに感謝の気持ちを伝える時(口頭と手紙)

即興プレゼンテーションをした時に事前準備がなにもできなかったため、自分の使える語彙を全て使ってプレゼンテーションを成功させたこと。

中間テスト後から始まった、週末のエッセイ作成の課題です。エッセイフォーマットや文法に気を付けながら全力で取り組みました。毎週その週に習った文法や英文に沿った課題のエッセイで、比較や主張を裏付ける証拠の提示、引用など目的に合ったエッセイを書くために時間をかけて頑張りました。ブレインストーミングやアウトラインなど、一つ一つの行程を抜かすことなく丁寧に取り組んでいたと思います。

留学先大学の良かった点

スピーキング重視だったところがよかった。

先生方はとても親切で、みんなにやる気がありました。色々な場所への旅行が比較的行きやすかったです。学校の施設が非常に充実していました。街の人たちも優しい人ばかりでした。

大学の附属の語学学校ということもあり、施設が充実していた。

旅行にも行きやすい立地。スピーキング能力を上げられる授業校生だったので自分の目標にあっていた。

大学の敷地がすごく広くて綺麗で勉強する施設が整っているので、本当にクイーンズ大学に行けて良かったと思う。

いろんなイベントが企画されていたのがとても良かったです。ホッケーやフットボールなどの試合観戦やジムの開放、ボウリング、パンプキンフェアなどさまざまなイベントに無料で参加できたことができました。クラスで友達ができても、他のクラスの子とは普通の授業内で関わることは全くありませんでした。ですが、これらのイベントを通して普段は話せないような他クラスの子とも話すことができ、交流を広めることができました。

留学生にむけてたくさんのイベントを開催してくれたことが良かった

立地。オタワ、トロント、モントリオール、ナイアガラすべてに行ける場所でもよかった。

私がいった留学先はトロントやオタワなどからバスで3時間ほどと、ロケーションが良かったので沢山の都市へ旅行へ行けました。さらに、私が関わった教師は皆さん親切な人でした。街の雰囲気も静かではあるが、ダウンタウンなどへ行けば栄えているというような暮らしやすい場所でした。

様々な留学生向けのアクティビティがあり、誰でも参加できたこと。現地学生向けのサークルやイベントでも参加したいと伝えると、みんなウェルカムだったこと。ジムや図書館など施設が充実していたこと。

大きなサッカーコートがあり、ボール等も無料で借りられるため、友達とスポーツをすることで時間を過ごすことができました。

毎週3から4つのイベントをオンラインや対面でやって下さっていたところです。クイーンズ大学がこれらのイベントを毎週企画実行してくれていたおかげで、様々な体験や出会いが生まれ、留学をより充実したものにすることができました。